

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	済生会山口地域ケアセンター グループホームあさくら		
所在地	山口県山口市朝倉町4-55-6		
電話番号	083-933-0030	事業所番号	3570300909
法人名	社会福祉法人 恩賜財団済生会支部山口県済生会		

訪問調査日	平成 21 年 6 月 11 日	評価確定日	平成 21 年 8 月 4 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人 非常勤 2 人 (常勤換算 7 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋(S造) 造り	
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 45,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	有 / 無
食費	日額 1,300円			
その他の費用	月額 11,000 円			
	内訳 光熱水費 10,000円 日用品費 1,000円			

(4) 利用者の概要 (6月11日現在)

利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名	
	要介護1	3	要介護4	1
	要介護2	3	要介護5	
	要介護3	2	要支援2	
年齢	平均 83.2 歳	最低 71 歳	最高 93 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 済生会湯田温泉病院
	歯科 大内宇都宮歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

「主人公は入居者さま」という基本理念のもと、利用者一人ひとりの思いの把握に努められ、生活歴や好み、活躍できることを活かし、たくさんの場面づくりをして、楽しみごとや気晴らし、張り合いのある暮らしができるよう支援されています。食事は三食とも事業所で作っておられ、利用者の希望や好みを聞いて献立を立て、調理や盛り付け、配膳、片付けなどを利用者と一緒にされ、職員は、朝、夕、昼(1名)の食事を同じものを食べ、食事の感想などを話し合っ、次の献立に活かされています。ときには外食やお弁当を注文するなど変化をつけ、食事が楽しめるよう工夫されています。利用者の体調に合わせて管理栄養士に相談し、食材、調理方法についてアドバイスを受けるなどして、量や栄養バランスを配慮した食事を提供されています。

(特徴的な取組等)

職員10名の内、管理者が看護師、介護支援専門員の資格があり、他の職員も7名が介護福祉士、4名が介護支援専門員、1名がヘルパー2級などの資格を有し、専門的な知識や経験で利用者のケアにあたっておられます。経験年数に応じての段階的な法人内外の研修に勤務の一環として参加する機会も多く、職員を育てるために前向きな姿勢で取り組まれています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果については職員で話し合わせ、利用者の尊厳を傷つけない言葉や対応の徹底に取り組まれ、また、急変や事故発生時の備えとして、実際の急変の事例について、事業所内で研修をされるなど、できることから改善に取り組まれています。

(今回の自己評価の取組状況)

自己評価のスタッフリーダーを決め、リーダーが管理者や職員に項目を割り振りし、項目担当のスタッフが他のスタッフに意見を聞きながらまとめておられます。職員間で話し合い共有することでケアの振り返りとされています。

(運営推進会議の取組状況)

町内会長、地域包括支援センター職員、家族(数名)、施設長、職員等で2ヶ月に1回開催され、事業所の状況や行事を報告し、意見交換をしておられます。近くの神社で餅まきがあることなど、地域の行事について報告もあり、利用者が参加されるなど、サービスに活かされています。

(家族との連携状況)

毎月、事業所新聞を発行し、行事での利用者の様子を写真に撮り、コメントを添えて家族に報告されています。面会時に事業所内での利用者の日常の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等を伝え、家族から意見や要望を聞いておられます。職員の異動については新聞や運営推進会議で知らせておられます。年2回、利用者、家族、職員とで食事会を楽しまれ、連携を図られています。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、自治会総会に職員が出席したり、地区の清掃作業や八幡様の餅まきや祭りなどに参加して地域の人と交流しておられます。玄関前にテーブルや椅子を置き、利用者がお茶の時間を過ごし、通りかかる地域の人や、保育園児、障害施設の人などと挨拶を交わし会話を楽しんでおられます。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「主人公は入居者さま」を基本理念としている。地域の自治会に加入したり、清掃活動に参加するなど地域との関わりを持つよう努めているが、理念の見直しはしていない。	・地域密着型としての理念の検討
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者と職員はカンファレンスなどで理念を共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、自治会総会に職員が出席したり、地域の清掃作業や八幡様の餅まきや祭りなどに参加し、地域の人と交流している。玄関前に、テーブルや椅子を置き、利用者がお茶の時間を過ごし、通りかかる地域の人や保育園児、障害施設の人などと会話を楽しんでいる。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価はスタッフリーダーを決め、リーダーが管理者や職員に項目を割り振りし、担当の職員が他の職員の意見を聞いてまとめている。前回の評価結果については、職員で話し合い、できることから改善に取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	町内会長、地域包括支援センター職員、家族(数名)、施設長、職員等で2ヶ月に1回開催している。事業所の状況や行事を報告し、意見交換をしている。餅まきがあることなど地域の行事についての情報もあり、サービスに活かしている。	・メンバー拡大の検討
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当課と連携し、相談や質問をして助言や解答を得て、サービスに活かしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、事業所新聞を発行し、行事での利用者の様子を写真に撮り、コメントを添えて家族に報告している。面会時に、利用者の日常の暮らしぶりや、健康状態、金銭管理等を知らせている。職員の異動は、新聞や運営推進会議等で報告している。年2回、家族との食事会がある。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や運営推進会議等で家族から意見や苦情等を聞いて運営に反映させている。相談や苦情受付窓口、担当職員、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを定めている。玄関に苦情処理箱を設置している。第三者委員の選任はしていない。	・第三者委員の選任の検討
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤8名、非常勤2名の職員を確保し、利用者の状況の変化や要望に柔軟に対応している。職員の急な休み等、必要時には職員と話し合い、勤務の調整に努めている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	法人事業の拡大のため、異動はあったが、職員の介護に対する思いを聞くなどして、利用者へのダメージを防ぐように配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員は経験年数などの段階に応じた法人内外の研修に、勤務の一環として参加している。内部研修はデイサービス職員と合同で月1回実施している。いろんな研修開催内容を、連絡帳や掲示で知らせ、職員が自主的に参加しやすいよう工夫し職員を育てる取り組みをしている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や、山口・防府グループホームの会に加入し、研修に参加し交流している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用前に本人や家族に事業所を見学してもらい、他の利用者や場の雰囲気を感じてもらっている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は利用者と日々の生活を共にしながら、畑仕事や料理を一緒に行なう中で、魚のさばき方や味付けなど得意な事を教わったりして、共に支えあう関係を築いている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員1名が利用者2名を担当し、日々の関わりの中での何気ない会話や、言葉、表情、行動等から、本人の思いの把握に努めている。これまでの暮らしぶりを家族から聞きとり、センター方式のシートを利用して把握し、本人本意に検討している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	面会時等に聞いた家族の意向、把握している利用者の思い、必要時には医師や栄養士等から意見をもらい、職員間でカンファレンスを行い、それぞれの意見や希望を反映した介護計画を作成している。	
17 (42)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日頃から、個人記録の中に、介護計画の目標を「」の記号で表示し、モニタリングに活かしている。3ヶ月に1回の見直しの他、状態に変化が生じた場合は、その都度見直している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院受診の送迎と付き添い、帰宅、外食等の支援をしている。併設施設のラジオ体操への参加、併設保育園児との交流、足湯の利用など柔軟な支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関がかかりつけ医となっており、定期的な受診の支援をしている。入居前のかかりつけ医の受診(1名)については、必要な情報を提供し、家族、医療機関、事業所との関係を築いている。歯科の往診もあるなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	「重度化した場合の対応に係る指針」を定め、入居時に家族に説明し、意向等話し合い、職員も共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	職員は接遇研修を受けて、言葉かけや対応に気をつけて、日々のケアに取り組んでいる。記録等は保管し、取り扱いに気をつけている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、就寝、食事時間、入浴等、利用者一人ひとりのペースに合わせ、希望に添って支援している。食事に2時間くらいかかる利用者もあるが、ゆっくりとペースに合わせて支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食共、事業所で調理している。利用者の希望や好みを聞いて献立をたて、食事の準備(調理、盛り付け、配膳)や片付けを一緒にしている。行事や外出時は弁当にするなど目先を変えた形での食事にし、食事が楽しめるよう支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日15時から20時まで可能であり、一人ひとりの希望やタイミング、体調に合わせて、ゆっくりと入浴が楽しめるようにしている。入浴を嫌がる場合は、言葉かけや声かけのタイミング、気分転換を図るなど工夫して支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	テレビ視聴、オルガン演奏、ぬり絵、歌、生け花、縫い物、畑づくり、草取り、水やり、洗濯物たたみ、調理、片付け、散歩、ドライブなど楽しみごとや活躍できる場面づくりをし、気晴らしや張り合いのある暮らしができるよう支援している。年2回、家族と一緒に食事をし、バイキングなどで楽しんでいる。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	畑づくり、散歩、買い物、ドライブ、外食等、一人ひとりのその日の希望に添って外出支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人の身体拘束防止委員会に参加し、事業所内での勉強会や啓発に努め、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関に鍵を掛けていない。居室は日中、夜間共に鍵をかけておらず、利用者の自由な暮らしを支援している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデント・事故報告書に記録し、対応策を検討し、一人ひとりの状態に応じた注意事項の共有をして、事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	法人内で行なわれる救急救命の研修に職員は参加している。3回に分けて全職員が研修できるようにしている。実際に急変した利用者の事例について事業所内で勉強会を開いて訓練としている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法人の地域交流スペースが避難場所となっており、避難訓練を実施している。法人内1回と事業所として夜間想定訓練を1回実施している。地域へ協力を得るための働きかけはしていない。	・地域の人々の協力を得るための働きかけの検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	一人ひとりの薬効ファイルを作成し、薬の情報(目的、副作用、用法、用量)について職員は理解している。薬管理表に基づいて配薬し、4回チェック(セットする人、それを確認する人、与薬する人、それを確認する人)する事で誤薬のないよう支援している。必要な情報は意思にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアの支援をしている。歯間ブラシ、歯ブラシ、義歯等の洗浄、保管について支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量を記録し、水分量は必要な人のみ記録している。水分は毎食事、2回のおやつ時、入浴後や随時に補給するよう支援している。利用者の体調に合わせ、管理栄養士に相談し、食材、調理方法についてアドバイスを受けている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルにそって、手洗い、うがいの励行、手すり等の消毒など、予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	利用者やボランティアの作品等、季節に合わせたものを壁に飾り、テーブルには花を生け、利用者が折々の季節が感じられるよう配慮している。玄関前のテーブルやベンチ、フロアにソファがあり、テレビを視たり、利用者同士で話し合ったり、思い思いに過ごせるよう工夫している。調理の匂いや音、小鳥のさえずりも聞こえ、利用者は穏やかに生活している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	畳や馴染みのある家具、使い慣れた物や好みの物が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	済生会山口地域ケアセンターグループホームあさくら
所在地	山口県山口市朝倉町4-55-6
電話番号	083-933-0030
開設年月日	平成16年2月1日

【サービスの特徴】

隣接する敷地内に済生会湯田温泉病院、養護老人ホーム福寿園、特別養護老人ホーム福寿園、在宅複合型施設やすらぎ、身体障害者療後施設なでしこ、なでしこ保育園がある。食事は3食ともホーム内で作っている。利用者の体調に合わせ管理栄養士に相談し、食材、調理方法についてアドバイスを受けている。また利用者のニーズに合わせて戸外で昼食をとったり、お弁当を注文したり、変化を持たせている。畑には利用者家族のご協力のもと、野菜を植えており、収穫の際はなでしこ保育園園児との交流の機会を持っている。

【実施ユニットの概要】（5月20日現在）

ユニットの名称				
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 2名	女性 7名	
	要介護1	3	要介護4	1
	要介護2	4	要介護5	
	要介護3	1	要支援2	
年齢構成	平均 83.2歳	最低 71歳	最高 93歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価のスタッフリーダーを決め、リーダーが、各スタッフ、管理者へ項目を割り振った。項目担当のスタッフは、他のスタッフに意見を聞きながらまとめ記入した。
評価確定日	平成21年5月20日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>今後もできるだけ地域に出て行き、関わりを持っていきたい。</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえ、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>自治会の活動にできるだけ参加していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価での指摘事項は改善していくよう、職員間で話し合い意識を共有し、ケアにあたっている。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1度、町内会長、地域包括支援センター、ご家族数名、施設長、スタッフで、サービスの実際や評価での取り組み状況を報告し、意見交換を行っている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険の改定等、質疑を確認しサービスの質の向上に取り組んでいる。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	地域福祉権利擁護事業や、成年後見制度については大まかにしか理解できておらず、制度の違いを明確に理解できていないスタッフもいる。	各自理解を深めていく必要がある。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会に1名参加し、日頃のスタッフの言動や行動が虐待にあたるのではないかと考える機会を持つようにしている。	虐待ではないかと感じた時は、お互いに注意し合えるような関係作りをしていく。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には必ず家族へ詳しい説明をする機会を持ち、納得のうえ行うようにしている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に苦情処理箱を設置している。又日頃の関わりの中、意見や不満等言い易い雰囲気作りを心がけている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月あさくら新聞「絆」を作成し、ホームでの様子を報告している。家族の面会時には、利用者の暮らしぶりや、健康状態、金銭管理等を報告出来ている。又、職員の異動は新聞や、運営推進会議で報告し、担当者は直接ご家族に挨拶をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	運営推進会議の議事録、自己評価、外部評価は閲覧できるようにしている。		希望があれば情報開示要求に応えていく。
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	入居の際、苦情申立窓口の説明をし、玄関先に苦情処理箱を設置している。運営推進会議にてご家族の意見を聞く時間を設けている。		日頃から情報交換を行い、家族とのコミュニケーションを大切にしていきたい。1回/年満足度調査予定(12月)
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	勤務の交代時などちょっとした時間で個別に意見を聞く機会を設けており、話し合いが必要と思われる内容についてはあさくら会議の議題として話し合っている。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要な際はスタッフに理由を説明し、協力を得て勤務の調整を行っている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ケアセンター内の拡大事業のため職員の異動を余儀なくされた。5年をめぐりにケアセンター内での異動は考えている。交代の際に相応の経験年数を考慮されている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ケアセンター内で経験年数ごとにラダー研修・キャリアアップ研修に参加、法人外の研修も経験年数や希望を考慮し参加している。研修については連絡帳や掲示でお知らせしている。参加希望については職員間で差がある。		今年度はセンター外研修に3回は参加するよう目標を立てた。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	職員年齢層も20 - 60代と幅広く、年齢相応の生活経験・発想を活かし、スタッフ間で役割を認識しながら利用者に対応していく。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	県グループホーム、宅老所の会や、山防グループホームの会、施設部会に加盟しており、研修に参加・同業者との交流の機会を持っている。		ネットワークを活用し、他のグループホームの見学などの機会を設け、刺激を受けケアに活かしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		今後もスタッフ間で声掛けを行い、休憩時間が取れるようにしていく。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に電話連絡をしたり、面会に来られた際は本人を交えて会話をしている。その中で、気付いたことや困ったこと等ないか伺い、その後のケアに生かしている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人の家族の思いなど、来所された際に報告している。逆に、ご家族の思いも、本人に話すようにしている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	葉書等で誘いがある。本人と家族に相談し、確認をした上で交流を持つようにしている。又、ご家族の協力を得て、生家を訪れている。		利用者がよく口にする所やお墓参りなど、元気なうちにご家族の協力を得て行っていきたい。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	出来るだけフロアにでてきてもらい、新聞折や調理作業を促し行っている。仲の良い利用者はお互いの部屋で話をしている場面も見られる。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院で退去された方が、育てられていた花を引き続き育て、その花を持ってお見舞いに行ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各担当が、本人の思いをしっかりと聴くように努めている。		スタッフ間で意見を交換、カンファレンスを行い、ケアの統一を図る。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族にも協力して頂き、センター方式シートを記入し、活用している。		定期的な見直しと、情報交換が必要。
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	お願いメモやプランノートを活用し、申し送りの際に本人の体調変化や注意事項等確認し合い、変化があればその日のリーダーに報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の想いやご家族の希望を聞き、スタッフ間でカンファレンスを行い、介護計画を立案している。	遠方のご家族には電話にて説明をし、郵送にてサインをいただいている。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	体調や様子の変化に応じ、評価は行えているが、新しい介護計画の立案は遅れがちである。	本人の状況にあった介護計画の変更と立案が行えるようにして行く。
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気付いたことがあれば、担当者が中心となってデータ収集をしケアに携わっている。介護計画は#で記し、記録に残している。	#の記入もれがあるので、確実にして行く。データ収集後のカンファレンスを行い、情報の共有を図る。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	養護老人ホームのラジオ体操に参加したり、なでしこ保育園児との交流の機会を多く持っている。又、なでしこ園の足湯に行き、病院や特別養護老人ホームの利用者との関わりも設けている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域資源と協力しながらの支援は、特に行っていない。	本人の意向があれば、必要に応じ地域資源と協力しながら支援していく。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	2ヶ月に1度、運営推進会議を行っている。また、依頼があれば認知症について話をする機会も設けている。ご家族の見学は随時受け付けている。	地域の方にも、認知症やグループホームについて、理解いただけるように話の機会を持つようにする。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の状況に合わせ、必要であれば介護支援専門員に相談している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		終末期について家族との具体的な話し合いの機会をもつ。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>接遇研修を受けており気をつけているが、時折馴れ馴れしい言葉も聞かれている。記録類は目につかない場所に保管している。</p>	<p>改善はみられたが、今後も一層の対応の徹底・尊厳を傷つけない言葉がけに注意していく。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人に分かるような言葉を選んで話しかけ、できるだけ本人に自己決定してもらえるようにしている。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>食事の準備や配膳を一緒にしている。日用品等の買い物に職員と一緒に掛かけ、気に入った物を相談しながら決めている。畑・花の手入れにも力を入れており、野菜を日々の食材に取り入れたり、花壇の花を生け花にして飾る等している。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一応の日課はあるが、起床の遅い人は遅い食事をとってもらったり、買い物・調理・掃除などその人のペースに合わせて支援している。</p>	<p>限られた人数の中での個々に応じた支援。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>家族の協力を得られる方は、馴染みの店へ出掛けている。その他の方は、移動理容車や近くの理・美容店を利用し本人の希望に沿うよう努めている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>「何が食べたいか」「肉と魚どちらがいいか」など希望を聞いて献立を決めたり、食事の準備や調理・片付けを一緒にしている。また、毎食スタッフが1名同じ食事を食べ、食事の感想などを言い合い、今後の献立に役立てるよう心掛けている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>「何が飲みたいか」「何が食べたいか」など希望を聞いて提供している。また、煙草については本人と職員が店まで同行し、購入している。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>個々の排泄の・パターン、行動を把握し定期的に声掛けトイレ誘導をしている。常に職員間で情報交換し、担当職員を中心にパットの必要性や種類を検討している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		外出の機会を増やす。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		気軽に参加できるような取組み。 畑については家族の方を中心に。
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		言葉による拘束をしてないか再度スタッフ全員で見直していきたい。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		町内会等で実施行われている災害時の対応等の情報を得て、具体的にどのように協力が得られるか働きかけていきたい。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		日頃の職員間での情報交換はもちろんだが、各勤務帯にて申し送りを行い、情報の共有を密にしている。また、特変があった時は職員間で相談し、管理当直に報告・相談をしている。
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		個人別の薬効ファイルを作り、定期薬とともに新たに処方があったものは、必ず目を通すようにしている。また、薬管理表にて現在使用している薬を確認しながら配薬し、薬をセットする人、確認する人、与薬する人、確認する人、と4回チェックし、もれがないようにしている。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		腸閉塞既往歴のある利用者がいるので、管理栄養士に相談しながら食材選びや献立に気を配っている。排便は毎日確認し記録をしている。また、水分補給(イオンゼリー等)にも留意している。
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		歯間ブラシを使用したり、個々の必要性に応じた口腔ケア、道具の管理をしている。義歯は夜間事務所にて預かり、洗浄剤を使用している。
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		個々の状態に応じて補食品を検討したりしている。水分に関しては毎食事、10時、15時、入浴後、また随時こまめに促すよう心がけている。
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		感染対策マニュアルを活用し、職員も勤務前必ず手洗い、うがいをし、予防に努めている。また、毎朝、利用者が起きてくる前に手すり等手のよく触れる所を消毒している。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		毎週日曜日、包丁、まな板等の消毒を行っている。食材に関しては賞味期限を確認しながら行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	センター内の他施設の利用者さんに協力してもらい、玄関周りの花を育て、交流をもっている。玄関先には机と椅子があり、利用者さんがゆったり過ごしなが、道行く人と挨拶を交わすなど交流の場となっている。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	毎月、季節に応じた絵を御協力のもと飾ったり、テーブルの椅子や配置なども個々の状況に応じて随時変更したりしている。また、随時換気するなど気持ちの良い空間を作るよう心掛けている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下や玄関前にベンチ、フロアにはソファを配置し、利用者さん同士、利用者さんと職員が少人数でゆっくり話せる場所を作っている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	畳やなじみのある家具を持ち込んだり、各利用者さんが過ごしやすい環境を本人、家族と相談しながら整えるよう努めている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天気の良い日は玄関、フロアの窓等開け換気をし、冬場も時間を決め換気を行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	廊下の手すり、共同トイレ、各居室内のトイレ等、利用者ができる限り自分でできるよう工夫をしている。生活環境とともに本人の身体機能、その日の状態に応じた支援をするよう努めている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人のできる力、意欲、分かる力等を活かし、個々に応じた支援を行っている。タンスに貼り紙をし、中に入っているものが何か分かるように支援している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前に花の楽しむスペースがあり、気候の良い日はそこで食事を楽しんだり、庭でバーベキューをしたり、畑を活用しご家族や地域の方と交流を図れるようにしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない